

窓の内側の曇り、気になりませんか

車の窓の内側は、いつの間にか白く曇ったように汚れてしまうことがあります。車内でたばこを吸う習慣がなくても、窓には汚れが付着します。

窓を曇らせる原因は、“油膜”です。人の呼吸や汗に含まれる水分や皮脂などの汚れが空気中を漂い、窓に付着します。これが結露を繰り返すことで油膜となって蓄積されるのです。



また、内装素材から放出される「可塑剤（かそざい）」という成分も原因の一つです。日光やエアコンによって放出された微粒子がガラスに付着して頑固な層を作り、湿気を抱き込むことでしつこい曇りを引き起こします。

走行中に突然の曇りで見通しが悪くなった場合は、応急処置として「デフロスター」を活用するのが効果的です。フロントガラスに乾燥した送風が集中し、素早く曇りを除去できます。より効果的にするには、エアコンを「外気導入モード」に設定し、さらに窓を数センチほど開けて空気を逃がしましょう。



曇っているガラスを水拭きする方も多いと思いますが、一般的な水道水で窓を拭くと、かえって視界がすっきりしないことがあります。水道水にはカルシウムやマグネシウムといったミネラル成分や、消毒のための塩素が含まれているため、乾燥すると微細な水垢となって固着してしまうためです。では、どうするのがよいのでしょうか。専用の洗剤もありますが、「精製水（純水）」をご存知でしょうか。精製水は不純物が極限まで取り除かれているため、それ自体が汚れを強力に吸い込み、乾いた後にシミや水垢を残さないというメリットがあります。精製水は馴染みのない方も多いと思いますが、ドラッグストアやホームセンターなどで購入できます。



精製水を含ませたタオル（マイクロファイバータオルがおすすめ）で拭き、その後に乾いたタオルで乾拭きをするとすっきりします。



私たちが運転中に得る情報の多くは、目からの視覚情報です。曇ったガラスでは、必要な情報を見落としてしまうことがあります。見えにくいと運転姿勢も崩れやすくなります。

すっきり見えることは、安全運転には欠かせません。

